

ゆに わーるど

2014/I
Vol.46

2013年の活動状況

UNIDOの新たなビジョン
「包摂的かつ持続可能な産業開発」

アフリカアドバイザー事業のご紹介

「川崎国際環境技術展2014」に出展

世界の国から エチオピア連邦民主共和国



エチオピア ターバンを巻くオロモ人

第15回 UNIDO 総会を開催

2013年12月2～6日、UNIDO 加盟国代表がペルー・リマに集い、第15回 UNIDO 総会が開催されました。総会ではパン・ギムン国連事務総長、ペルーのウマラ大統領らの臨席のもと、リマ宣言が採択されました。

1975年にUNIDOが専門機関になる道を敷いたリマ宣言から約40年を経て採択さ

れた今回のリマ宣言で、リー・ヨン UNIDO 事務局長は、今後のUNIDOの優先事項を描く指針を示し、包摂的かつ持続可能な産業開発の必要性を強調しました。

また、UNIDO 総会の本会議と並行して開催されたサイドイベントのうち、中小企業と産業協力をテーマとしたパネルディスカッションには、優れた環境技術を有する日



(左から) 国連事務総長、ペルー大統領、UNIDO事務局長

本の企業代表も参加し、成功事例の紹介や提言を行いました。

2013年の活動状況

2013年1月～12月の一年間におけるUNIDO東京事務所の主な活動をご紹介します。

① 投資・技術移転促進専門官の招聘

下記9か国の政府関連機関などから投資・技術移転促進専門官を日本に招聘し、セミナーでの講演や企業・団体との個別面談などを通じて、現地のビジネス環境や個別の投資・技術案件を紹介しました（氏名、所属団体、招聘期間、促進分野の順に記載）。



セルビア
犬丸マテヤ・ミレンコヴィッチ氏
セルビア投資輸出促進庁 (SIEPA)
輸出促進アドバイザー
3月10日～16日 自動車部品、ITアウトソーシング



インドネシア
ハリス・ズルカルナイン氏
ジャサ・ティルタII株式会社
企画・調査・開発室長
10月27日～11月2日 給水、水力発電



セネガル
アダマ・ンディアイ・ゲイ氏
セネガル投資促進・大規模公共工事公社 (APIX) 工業担当マネージャー
3月11日～22日 食品加工、鉱業、エネルギー



カザフスタン
カイラット・カルマノフ氏
カザフスタン輸出・投資庁 副長官
10月27日～11月2日
上下水道



エジプト
エハブ・ファルーク氏
エジプト新再生可能エネルギー庁 (NREA)
計画課長
4月1日～12日 再生可能エネルギー



ミャンマー
アウン・サン・ウィン氏
ヤンゴン市開発委員会 (YCDC)
調整局長
10月27日～11月2日 上下水道



モザンビーク
ケンワッティ・ムアンド氏
モザンビーク投資促進センター (CPI)
プロジェクト・オフィサー
4月8～19日 鉱業、インフラ、農水産品加工



エチオピア
アクリル・ウォルデマリヤム・ハブテ氏
エチオピア投資庁 (EIA)
投資促進局長
11月25日～12月10日
皮革、エネルギー、農産品加工



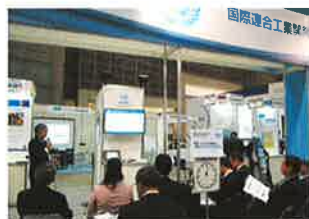
ラオス
ボンタヴァン・シンハラット氏
ラオス計画投資省 (MPI) 投資促進局
国際投資協力部長
8月27日～9月11日 鉱業、エネルギー、農産品加工



トルコ(イズミール地方)投資セミナー



TICAD V 投資・技術移転セミナー



INCHEM Tokyo 2013

② セミナー、ワークショップ等の開催

下記を始めとする計35件のセミナー、フォーラム、ワークショップ等を政府関連機関、業界団体などと協力して開催しました。

- スリランカ投資相談会 (3月)
- セルビアITアウトソーシングセミナー (3月)
- エジプト再生可能エネルギーセミナー (4月)
- セネガル投資セミナー (4月)
- モザンビーク投資セミナー (4月)
- ナイジェリア電力・エネルギーフォーラム (4月)
- 第4回アフリカ開発会議 (TICAD V)・サイドイベントセミナー「アフリカの持続可能な工業開発とクリーンテクノロジーの活用」及び「アフリカにおける投資促進と技術移転」 (6月)
- トルコ(イズミール地方)投資セミナー (6月)
- ラオス投資セミナー (9月)
- 都市づくりの将来に関する国際会議・公式サイドイベント「東南アジアにおけるエコ・シティの推進」セミナー (10月)
- 「新興国(インドネシア、カザフスタン、ミャンマー)における水関連事業の実例と我が国への期待」セミナー (10月)

- エチオピア・ビジネス投資セミナー (12月)
- モロッコ王国投資セミナー (12月)

③ 技術移転

下記の展示会やイベントにブース出展し、UNIDOの取組みや日本企業の環境技術などを紹介しました。また、環境エネルギー分野を中心に、日本企業の優れた技術をホームページ上で紹介しました。

- 「川崎国際環境技術展2013」 (2月)
- 「中国(上海)国際技術輸出入交易会」 (5月)
- 「スマートコミュニティJapan 2013」 (5月)
- 「INCHEM Tokyo 2013 ー水イノベーション2013」 (10～11月)

④ キャパシティ・ビルディング

途上国からの視察団や駐日大使館員を対象とした、セミナー・ワークショップの開催や展示会・工場の視察を実施しました。

- 「JASIS 2013 分析機器・科学機器展」視察 (2月)
- 「第5回 国際PB・OEM開発展」視察 (2月)
- 東京エレクトロン(株)テクノロジーセンター視察 (7月)
- 三菱ふそうトラック・バス(株)川崎工場視察 (9月)



三菱ふそうトラック・バス(株)工場

- エコタウン管理者向けワークショップ開催 (10月)
- 「スマートシティウィーク 2013」視察及びワークショップ開催 (10月)
- 西谷浄水場(横浜市)視察 (10月)
- 「第3回鉄道技術展」視察及び懇談会開催 (11月)

⑤ 海外からの要人來訪

- スリランカ投資庁 (BOI) 理事 (3月)
- ケニア投資庁長官 (6月)
- モロッコ・カサブランカ・フリーゾーン長官 (6月)
- トルコ・イズミール開発公社 (IZKA) 幹部 (6月)
- レント王国通信・科学・技術相 (10月)
- 中国グリーン・シルクロード視察団 (10月)
- トルコ・ティグリス開発公社 (DIKA) 事務局長 (11月)
- アルジェリア開発投資庁 (ANDI) 投資局長 (12月)

from the world
世界の国から

エチオピア連邦民主共和国

Federal Democratic Republic of Ethiopia



アクリル・ウォルデマリアム・ハブテ氏

エチオピア投資庁 情報・投資促進局長

Mr. Aklilu Woldemariam Habte
Director, Information and
Investment Promotion Directorate,
Ethiopian Investment Agency (EIA)

首都 アディスアベバ
面積 109.7万平方キロメートル
(日本の約3倍)
人口 約9,173万人(2013年:世銀)
政体 連邦共和制
元首 ムラトウ・テシヨメ・ウィルトウ 大統領
言語 アムハラ語、英語
通貨 ブル(BIRR)

グッド・ガバナンスと高い経済成長を誇る国

アフリカで最も安定した国

エチオピアはアフリカ北東部に位置しており、国土の大部分がエチオピア高原を中心とする高地にあります。首都アディスアベバの年平均気温は10~23°Cと過ごしやすく、その他のほとんどの地域も穏やかで生活しやすい気候です。政治的にも安定しており、他のアフリカ諸国に比べて犯罪率は低く、汚職についても厳しく統制されています。また、2004年以降のGDP成長率は年平均11%と、近年急速な経済成長を遂げています。

今回は初めての来日で、17日間の滞在中、皮革製品、エネルギー関係、農産品加工関係などの16の企業及び関連機関と面談し、香川、大阪、愛知で講演を行いました。多くの日本企業との面談を通して、日本の文化や社会生活はエチオピアにも通じる面があるという印象を受けました。ホスピタリティの高さ、労働者の勤勉さ、家庭的な雰囲気、職場環境などは、エチオピアと共通であると感じます。



アディスアベバの街並み
(写真提供:菅沼佐和子)

新規市場・製造拠点としての可能性

エチオピアは人口が多く、アフリカでも1、2を争う潜在的国内市場があります。また、19カ国が加盟し、約4億の人口を有する東南部アフリカ市場共同体(COMESA)の一員であり、これら加盟国市場へのアクセスに有利です。地理的に中東に近いことも潜在的な市場機会となっています。

政府の打ち出した国家計画(「成長・経済構造改革計画」2010~2015年)では、積極的に外国直接投資を受け入れる政策を取っています。ワンストップ・ショップ・サービスを設けて投資に関する各種手続きを一元化したり、投資法の改正を進めるなど、より投資しやすい環境が整いつつあります。また、外資を誘致するという意味で、わが国が比較優位性を持つ「製造業」と「農業」を国の重要セクターと位置付け、現地のビジネス環境を整備し、成果を上げています。特に、良質な綿花が栽培されることから、これを利用した繊維業には大きな可能性があります。また、アフリカ随一の家畜数を誇り、皮革加工業にも期待が持てます。その他、化学製品、医療品、鉄鋼業、農産品加工業の分野にも重点を置いています。

日本企業による投資を歓迎

40年ほど前には、現地に日本の繊維工場がありましたが、現在、日本とエチオピアの関係はODAが中心で、日本企業の参入はほとんどありません。しかし今回の来日で、いくつかの企業が本格的にエチオピアに進出しようとしていることが分かりました。例えば、横浜にある革製品の会社が、エチオピアの羊皮に注目し、進出に向けて実際に動いています。これを契機として、他の分野の日本企業もエチオピアへの投資を検討していくことを期待しています。

日本の企業は、長いスパンで計画を立て、小さく始めて着実に大きくしていくビジネススタイルであると理解しており、これは他国の投資家と異なる点だと思います。今回の来日で、日本の企業が育ててきた品質管理・生産性向上のノウハウはエチオピアの発展に直結するものだと期待を新たにしました。

エチオピア人はとてもフレンドリーで、英語が教育言語となっているなど、外資を受け入れる素地が備わっています。さらに、豊富で低廉な労働力があります。日本企業もこの貴重なビジネスチャンスを見逃すことなく、積極的にエチオピアに投資して欲しいと思います。

ゴンダール ファシリデス王の城(写真提供:菅沼佐和子)



UNIDOの新たなビジョン「包摂的かつ持続可能な産業開発」

昨年12月、ペルー・リマにおいてUNIDO総会が開催され、加盟国によってリマ宣言が採択されました。このリマ宣言は、UNIDOの今後の取組みの指針となるもので、持続可能な産業開発を達成してすべての人々に持続的な繁栄をもたらす"Inclusive and Sustainable Industrial Development" (略称: ISID, 邦訳: 包摂的かつ持続可能な産業開発) に重点を置いています。

国際社会の努力により絶対的貧困に属する人の割合は減少しましたが、貧困は依然として世界の中心的な課題です。貧困の撲滅には経済成長による支えが必要であり、同時に世界のすべての人々がこれに参加でき、その恩恵を受けられるようにすることが重要です。

現在、国連ミレニアム開発目標を継続する形で新たな持続可能な開発アジェン

ダが策定されていますが、我々はISIDが非常に重要なものになると考えています。

このISIDの重要性を各国・各界の皆様と共有していただけるよう、このたびUNIDO本部はISIDについてのパンフレット(日本語版を含む)を作成しました。印刷物のほか、当事務所のウェブサイトにも掲載しますので、是非ご覧ください。

アフリカアドバイザー事業のご紹介

UNIDO 東京事務所では、2013年より、日本企業のアフリカ進出を支援するアドバイザー事業を開始しました。モザンビーク、エチオピア、アルジェリアの3か国を対象に、現地人ビジネスアドバイザーを配置して、日本企業の相談窓口となって現地でのサポートを行っています。

アドバイザーは各国のUNIDO現地事務所にデスクを構え、現地ビジネスに関する情報提供を始め、現地パートナー企業の紹介、政府関連機関との面談の取りつけなどを行うほか、実際に現地へ出

張される際には通訳として同行するなど、日本企業の投資・技術移転の取り組みをバックアップします。それに加えて、各国のビジネス投資セミナーを開催したり、アドバイザーを日本に招聘して企業と個別面談を行うなどの活動も計画しています。

アフリカは有望な将来の投資先として魅力を増していますが、未だ現地情報の収集が容易ではないのが現実です。また、外国企業が進出する上での規制・手続きが複雑である場合も多く、現地政府機関の強い後押しがビジネス成功の鍵ともなっています。UNIDO 東京事務所では、アドバイザー事業を通じてこうした点を支援し、日本企業のアフリカ進出を後押ししていきます。

モザンビーク、エチオピア、アルジェリ

アでのアドバイザー事業にご関心のある方は、UNIDO 東京事務所までご連絡下さい。



アディスアベバ(エチオピア)



アルジェ(アルジェリア)



マプト(モザンビーク)

「川崎国際環境技術展2014」に出展

UNIDO 東京事務所は、2014年2月14日、川崎市とどろぎアリーナにて開催された「川崎国際環境技術展2014」に出展しました。5回目の出展となった今回は、ビジネスマッチングサポートゾーンという特別エリアにブースを設置し、日

本の優れた環境技術を途上国へ移転するUNIDOの活動について紹介しました。当日は、記録的な大雪となる悪天候にもかかわらず、多くの方がブースを訪れ、UNIDOの活動や支援スキームについて関心を示しました。

